



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

利賀村に200年前から伝わる国選択無形民族文化財の「初午神事」が、少子化により担い手の児童数減少で休止せざるを得ない事態になったという。もともとは小学生の男児だけで行っていたのだが、児童の減少に伴い女兒も参加させ、更には他地区からの応援も入れて最低でも必要な5人で続けてきたが、6年生3人が卒業し来年は2人になってしまうそうだ。

これは決して他人事ではありません、金屋町では家の軒数も住民人数も減少し続けています。御印祭の子供踊りや住民運動会を見ると、子供の少なさに驚くほどです。あらためて、これからの町づくりが重要だと感じます。

金屋町の重伝建が正式決定

12月28日の官報に告示され金屋町の重伝建選定が正式に決定したという知らせを聞き、インターネットで検索してみたところ、国立印刷局のホームページに公開されていました。

官報号外282号40ページに「文部科学省告示第182号 文化財保護法(昭和25年法律第214号)第144条第1項の規定により、次の表に掲げる伝統的建造物群保存地区を重要伝統的建造物群保存地区として選定する。文部科学大臣 下村博文 平成24年12月28日」とあり、高岡市金屋町・金沢市寺町台・郡上市郡上八幡北町・篠山市福住の4地区について、名称・所在地・区域・面積を記載した表が掲載されていました。これでいよいよ平成25年度から、国の助成金を活用して修理・修景の工事が順次行われることになります。

勇ましく、消防出初式

1月6日に定例行事として出初式が行われていることは知っていたけど、数十年前の幼いころに一度見物した記憶があるだけで行ったことがなかったのですが、今年は散歩がてらに行ってみました。

会場は城東地区の道路上なので古城公園駐車場に車を止め、そこから歩いて行きました。見物客



勇ましく裸放水

は200人ほどもいたでしょうか、次々とショーを演じてくれる消防関係者の人数が圧倒的に多数です。

会場に到着した時には、高岡じゅうからあるだけ全部を集めたと思われる、おびただしい数の消防車がパレードしていました。続いて消防音



演技する女性団員

楽隊によるドリル演奏、木遣り唄いとまとい初振り、はしご乗り、骨董ものの腕用ポンプ初放水と裸放水、はしご車を使った救助特別演技、一斉放水と、なかなかの迫力ある演技が続きました。ドリル演奏後には見物客に防火啓蒙チラシと一緒に、記念品として懐中電灯が配られ、はしご乗りでは紅白の餅まきもありました。

はしご乗りは3本のはしごを立てて行いましたが、中央のはしごに乗って演技したのが女性であり、時代の変化を感じました。いろんな行事に、たまには参加してみるものですね。

消防艇の出初式も



高岡市は「やまと」という名の消防艇を所有していて、1

1日に伏木港で出初式をするというので、これも見学してきました。海上で遭難者の救助訓練の様子を見せるのと、船に設置されている複数の放水口から赤黄青の水を一斉放水するのが主な見せ場です。一斉放水が始まるとあっという間に水煙が立ちこめて船影がかすみ、こちらが風下だったのでしぶきが降り注いできました。地元の幼稚園児が団体で見学に来ていて、歓声を上げていました。

1月14日は左義長祭

1月14日は左義長が行われ、正月飾りや書初めなどを燃やして今年1年の無病息災を祈念しますが、地方によって名称や形式がいろいろあるそうです。

富山県内でも宇奈月町下立



有磯神社の左義長

神社では「おんづろこんづろ」と言います。書初めが燃えて舞い上がる様子が鶴が飛ぶように見えたことから「おおづる こづる」と呼ばれたのがなまって「おんづろこんづろ」になったそうです。

入善町上野邑町(うわのむらまち)地区では、塞(さ

い)の神(道祖神)信仰と左義長が結びついた「塞の神まつり」として、独特の形式で行われています。ちなみに「塞の神まつり」は2010年に国の重要無形民族文化財に指定されています。

楽器生産の街から

音楽文化が薫る都市へ

創造都市～浜松市の事例

浜松市には本田技研・スズキ・ヤマハ・河合楽器などの大企業から中堅・中小の企業が集積し、地

方工業都市として著しい成長を遂げた。しかしひたすら経済効率を求めた結果まちは「生産現場」となり、また産業が成熟期を迎えて経済が停滞するようになった。



アクトシティ浜松

ひたすらモノの豊かさを追い求めた

高度成長期には生産現場の街でもよかったが、成熟期になると生活や文化を楽しむ機能が街に求められるようになってきた。

そこで浜松市は「産業と文化の調和ある豊かな人間都市」をめざして軌道修正し「楽器生産の街＝工業都市」から「音楽文化が薫る都市＝文化都市」へと、音楽文化都市構想を打ち出した。この音楽文化都市構想は、浜松テクノポリス構想、国際コンベンションシティ構想と三位一体のものとして位置づけ、ハード面では音楽文化の活動拠点としてアクトシティ浜松建設を、ソフト面では市民オペラの立ち上げと育成、多くの世界的な音楽イベントの招致など、新たな政策を推進した。

2000年には静岡文化芸術大学が開学し、将来へ向けてアートマネジメントの専門家を養成して、浜松の芸術文化政策推進への新たな歩みを踏み出しているところです。